

《「福王神社と巡見街道を歩く」》

主催：三重県・みえ歴史街道構想四日市地域推進協議会

協力：四日市市・菟野町・朝日町・川越町

平成23年10月9日（日）午前9時から15時に開催しました。

「巡見街道」は、江戸時代に幕府の巡見使が定期的に地方の藩政・民情視察のために通った道を指します。この日のコースは山道、坂道など厳しい箇所もありましたが、好天に恵まれ、わかり易い解説と案内で身近な地元の良さを発見できた参加者の皆さんは、“知る”喜びに足取りも軽く笑顔あふれる一日となりました。

◆巡見街道について講演

（講師：みえ歴史街道構想四日市地域推進協議会会長・佐藤誠也氏）

◆千種城跡（解説：みえ歴史街道構想四日市地域推進協議会委員・長谷川博久氏）

◆千草常夜燈・熊野神社・杉谷遺跡・田光の辻・福王神社

（解説：菟野町郷土研究会・諸岡忠至氏）



菟野地区コミュニティセンターでの受付の様子。朝早くからお集まりいただきました。



46名の方にご参加いただきました。主催者側より当協議会佐藤会長より開会のご挨拶を行いました。



石原菟野町長より歓迎のご挨拶を戴きました。



長谷川委員より手作りの模型を使って中世のお城についての解説がありました。当時の「お城」は山城で、自然の要害地をそのまま利用していたのです。



千種城跡は小高い丘の上。急な階段を登ります。
(三重県文化財指定史跡)



中世時代に北勢地域を統治した豪族、千種氏の居城跡。



千草の常夜燈。総高7尺に近い県下NO1の大きさを誇ります。村のシンボルであり、そこを通る人々の道標となりました。



熊野神社近くの山道を登って杉谷遺跡に向かいます。



昭和38年に発見された杉谷遺跡は、大規模な中世寺院の墓地として、多数の出土品が発見されています。

初めて訪れた方も多く貴重な遺跡の存在に驚いていました。



この中世遺跡の発見は、骨董泥棒事件によって判明との諸岡さんの説明を受け、意外な事実一同驚きました。

「田光の辻」

巡見街道と八風街道が交差する田光の辻は八風街道が賑わった頃は交易物運搬の間屋も置かれ、また、田光村の「郷倉」も建っていました。

この辻には大きな棕の木があります。

(諸岡さんの詳しい説明に聞き入ります)



秋の大祭が催されている福王神社へは、急坂を登った後、更に200段の石段を登ります。



古木の大樹に天狗が住むという伝説がある福王神社では「天狗のお祝い」を受けることができます。参加者の皆さんも神妙な面持ちでお祝いを受けました。



この日は参拝者らにお餅が振る舞われました。

あんこ・きな粉・青のりのつきたて餅を御馳走になりました。

最後は、天狗を中心に記念撮影。身近な地域の歴史にふれ、新しい発見があり楽しかった、と多くの皆さまから感想を頂きました。ご参加下さった皆さまありがとうございました。